



Shape your future



2014年1月期 決算説明会

株式会社シーイーシー

2014年3月17日



特徴ある製品・サービスで社会的に認知され、市場から期待される企業



新たな商品（製品・サービス）を常に生み出し、投資と収益のバランスが取れた競争力ある企業



従業員が活力にあふれ、自己の成長を実感でき、会社の成長への貢献に喜びを感じられる企業

商品価値 \geq 商品価格

- ・常に商品価値を高める努力
- ・納得の価格であることの自信

商品価値が商品価格以上であれば、顧客は喜んで対価を支払う (Willingness to pay)

顧客満足

事業再構築を行う

- ① 変化していく市場・顧客・技術を分析する
- ② 提供する製品・サービスを磨き、見直す
- ③ 事業内容を進化させる
- ④ 成長を加速する

事業構造の改革を行い
成長戦略を作り
実行していく

- I. 2014年1月期業績報告
- II. 2015年1月期の見通し
- III. 今期の具体的な取組み
- IV. 成長戦略

- I. 2014年1月期業績報告
- II. 2015年1月期の見通し
- III. 今期の具体的な取組み
- IV. 成長戦略

前年度比較

(単位：百万円)

	2013年1月期	2014年1月期		
			増減額	増減率
売上高	39,652	40,923	+1,270	+3.2%
営業利益	1,721	1,956	+235	+13.7%
営業利益率	4.3%	4.8%	—	—
経常利益	1,633	1,930	+296	+18.2%
経常利益率	4.1%	4.7%	—	—
当期純利益	1,267	1,120	▲147	▲11.6%
当期純利益率	3.2%	2.7%	—	—

I .2014年1月期業績報告

業績予想比較

(単位：百万円)

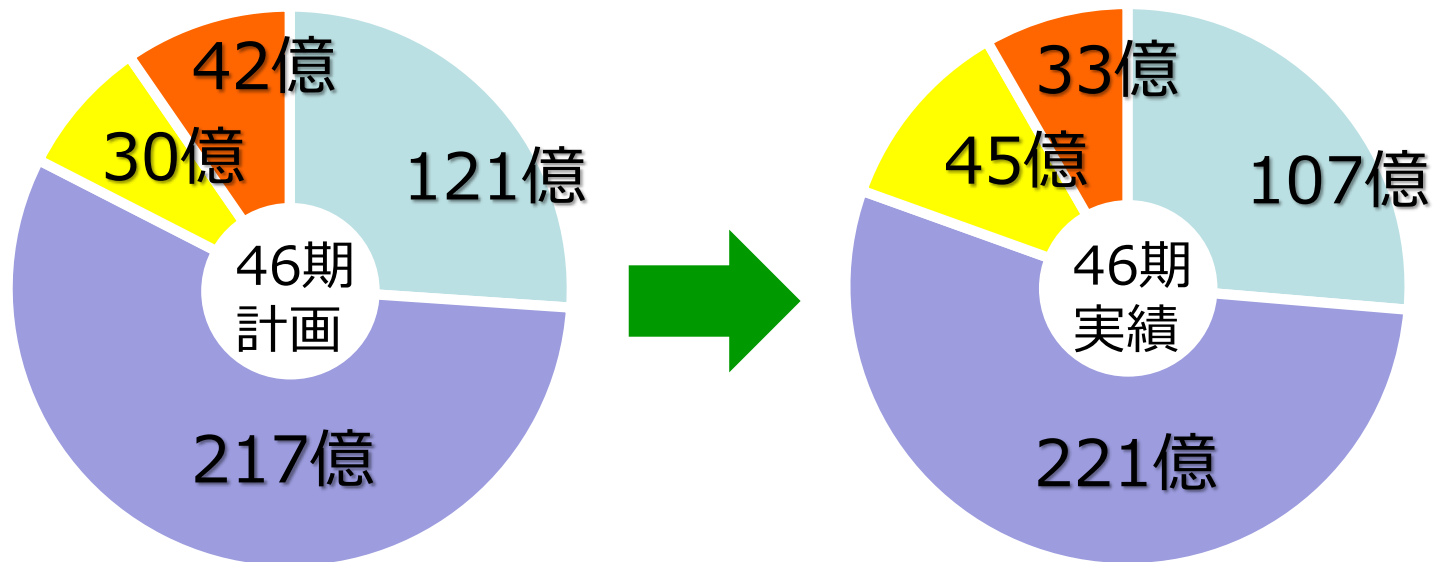
	2013年1月期	2014年1月期		
			増減額	増減率
売上高	41,000	40,923	▲76	▲0.2%
営業利益	2,000	1,956	▲43	▲2.2%
営業利益率	4.9%	4.8%	—	—
経常利益	1,800	1,930	+130	+7.2%
経常利益率	4.4%	4.7%	—	—
当期純利益	1,000	1,120	+120	+12.0%
当期純利益率	2.4%	2.7%	—	—

セグメント別前年度比較

(単位：百万円)

	2013年1月期		2014年1月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
システム構築	21,526	2,659	22,155	3,236	+629	+577
IT基盤	10,813	1,417	10,795	1,343	▲17	▲74
品質検証	3,987	453	3,374	243	▲612	▲210
ビジネス支援	3,326	255	4,597	239	+1,271	▲16
全社		▲3,063		▲3,105		▲41
全事業	39,652	1,721	40,923	1,956	+1,270	+235

業績ハイライト



システム構築

金融分野が好調
ニアショア開発伸長

IT基盤

インフラ構築は堅調
DCサービス横ばい
クラウド基盤サービスが伸びず

品質検証

スマホ市場激変でE S検証大幅減少

ビジネス支援

SecurePrintの成長加速
XP切替でPC販売特需

業種別売上の推移

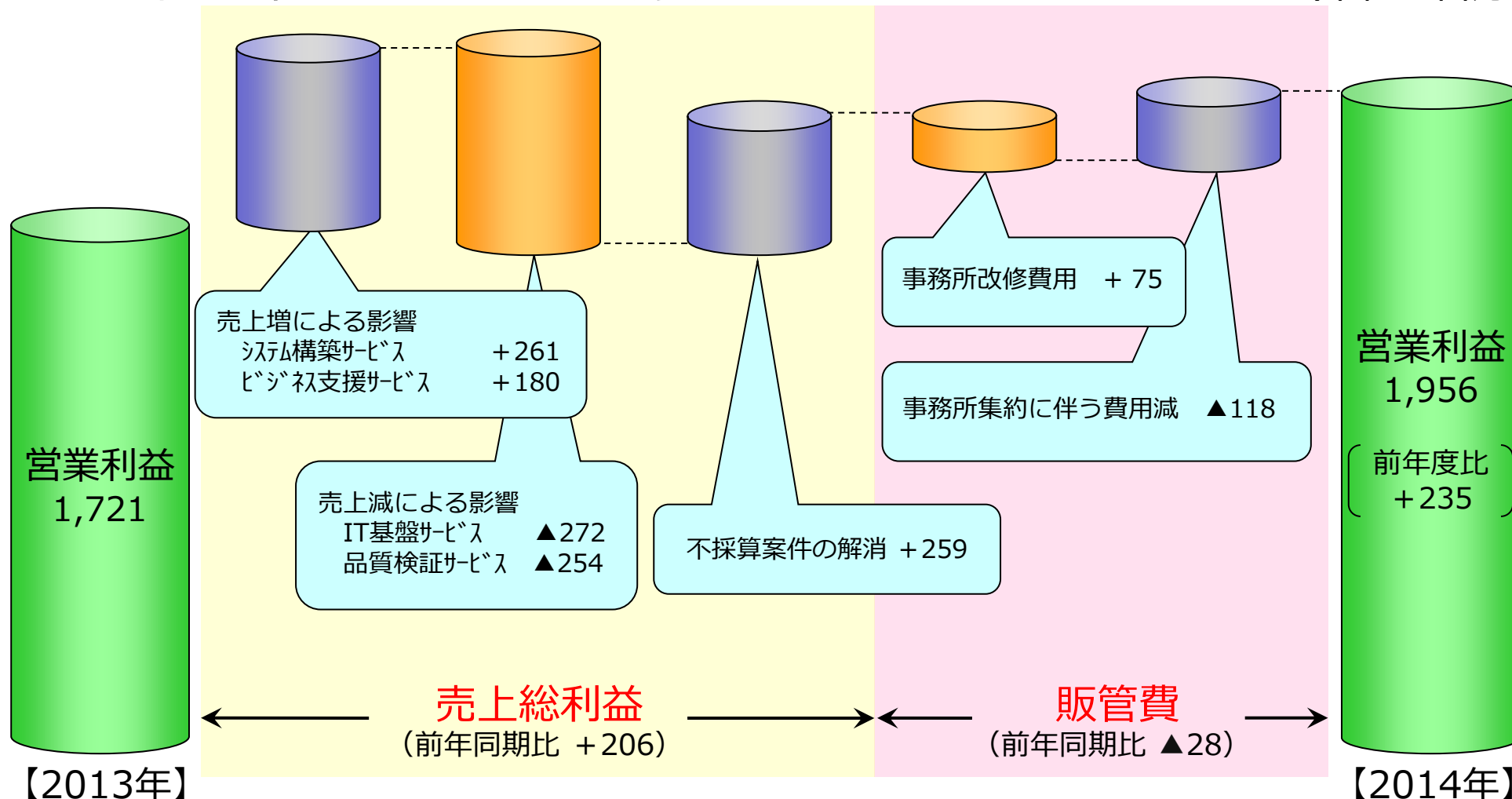
(単位：百万円)

業 種	2013年1月期	2014年1月期	前 期 比	
			増減額	増減率
製 造 業 (構 成 比)	17,904 (45.2%)	17,503 (42.8%)	▲401 (▲2.4%)	▲2.2%
通 信・情サビ業 (構 成 比)	10,026 (25.3%)	10,782 (26.3%)	+755 (+1.0%)	+7.5%
金 融 業 (構 成 比)	6,893 (17.4%)	7,593 (18.6%)	+700 (+1.2%)	+10.2%
流 通 業 (構 成 比)	1,497 (3.8%)	1,754 (4.3%)	+256 (+0.5%)	+17.2%
そ の 他 (構 成 比)	3,330 (8.3%)	3,289 (8.0%)	▲40 (▲0.3%)	▲1.2%
合 計	39,652	40,923	+1,270	+3.2%

通期業績の概要

■ 連結営業利益の主な増減要因

(単位：百万円)

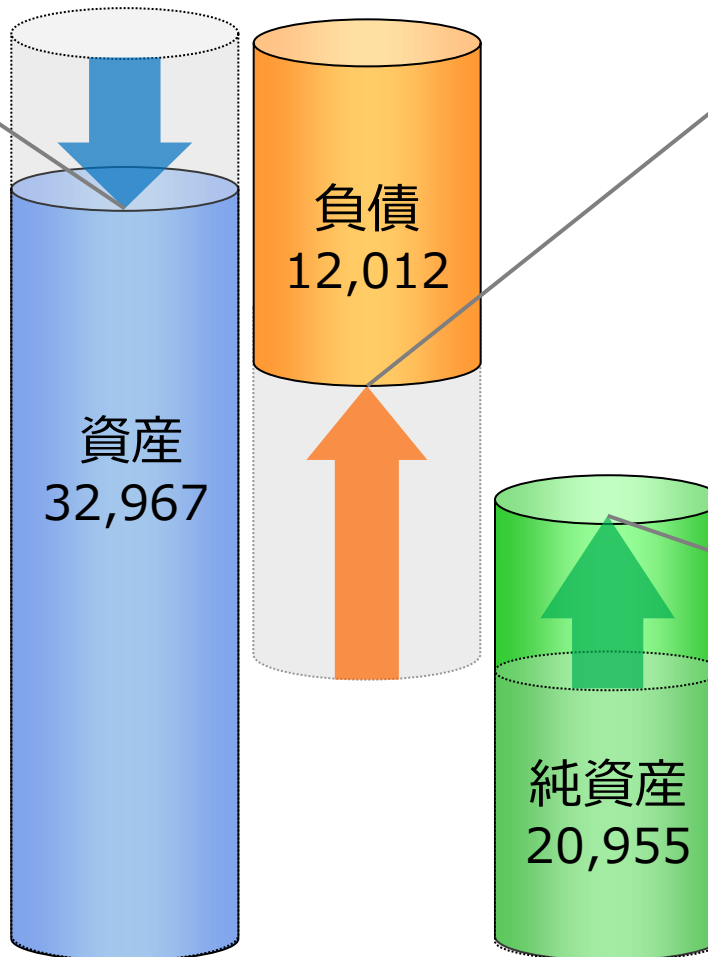


貸借対照表 概要

■ 連結貸借対照表 期首との比較

2014年1月31日現在
(単位：百万円)

資産 ▲1,010	
■ 現金および預金	▲1,394
■ 受取手形・売掛金	+546
■ 譲渡性預金	+400
■ 設備投資 (事業所改修)	+970 (+540)
■ 減価償却費 (データセンター投資)	▲1,403 (+202)



負債 ▲2,127	
■ 借入金	▲1,889
■ リース債務	▲331
■ 受注損失引当金	▲45

純資産 +1,116	
■ 当期純利益	+1,120
■ その他有価証券 評価差額金	+221
■ 配当金	▲384

※46期期首BS資産残高：33,978

- I. 2014年1月期業績報告
- II. 2015年1月期の見通し
- III. 今期の具体的な取組み
- IV. 成長戦略

通期業績予想のポイント

■ 外部要因

景況感は回復の兆しはあるものの、近隣諸国との外交不安、新興国経済不安定など懸念される外的要因により、市場全体の先行きは予断を許さない状況

■ 事業セグメント毎の状況

システム構築サービス

- ・ 金融・官公庁関連は堅調
- ・ 大手製造業を中心に設備投資意欲は旺盛、IT投資回復に期待

IT基盤サービス

- ・ インフラ構築は、官公庁関連が堅調、民間企業はクラウド構築が伸長見込
- ・ データセンターは、コロケーションの価格下落が厳しい

品質検証サービス

- ・ スマートフォン検証は、iPhone普及率拡大、日本メーカー低迷により規模縮小
- ・ 医療機器、HEMS機器の検証や情報システムなどアプリ検証ニーズが旺盛

ビジネス支援サービス

- ・ SmartSESAME SecurePrint ! が、大手企業・官公庁・自治体向けに引合いが強い
- ・ 製造業向け工場自動化支援ソリューションVR+RのRoboDiA/RaLC/Facteyeなどが、大手製造業の設備投資回復により案件活発化
- ・ XP保守打切りに伴うPC買い替え需要は減速

業績予想

(単位：百万円)

	2014年1月期 実績	2015年1月期予想		
			増減額	増減率
売上高	40,923	42,000	+1,076	+2.6%
営業利益	1,956	2,150	+193	+9.9%
営業利益率	4.8%	5.1%	—	—
経常利益	1,930	2,000	+69	+3.6%
経常利益率	4.7%	4.8%	—	—
当期純利益	1,120	1,150	+29	+2.6%
当期純利益率	2.7%	2.7%		

Ⅱ. 2015年1月期の業績見通し

セグメント別業績予想

(単位：百万円)

	2014年1月期		2015年1月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
システム構築	22,155	3,236	22,900	3,260	+744	+23
IT基盤	10,795	1,343	11,500	1,470	+704	+126
品質検証	3,374	243	3,400	300	+25	+56
ビジネス支援	4,597	239	4,200	270	▲397	+30
全社		▲3,105		▲3,150		▲44
全事業	40,923	1,956	42,000	2,150	+1,076	+193

- I. 2014年1月期業績報告
- II. 2015年1月期の見通し
- III. 今期の具体的な取組み
- IV. 成長戦略

基本方針

① 昨年発表した中期経営計画を継続（今期は2期目）

2016年1月期 目標

（変更せず）

【連結】

売上高	450億
経常利益	25億
同率	5.6%

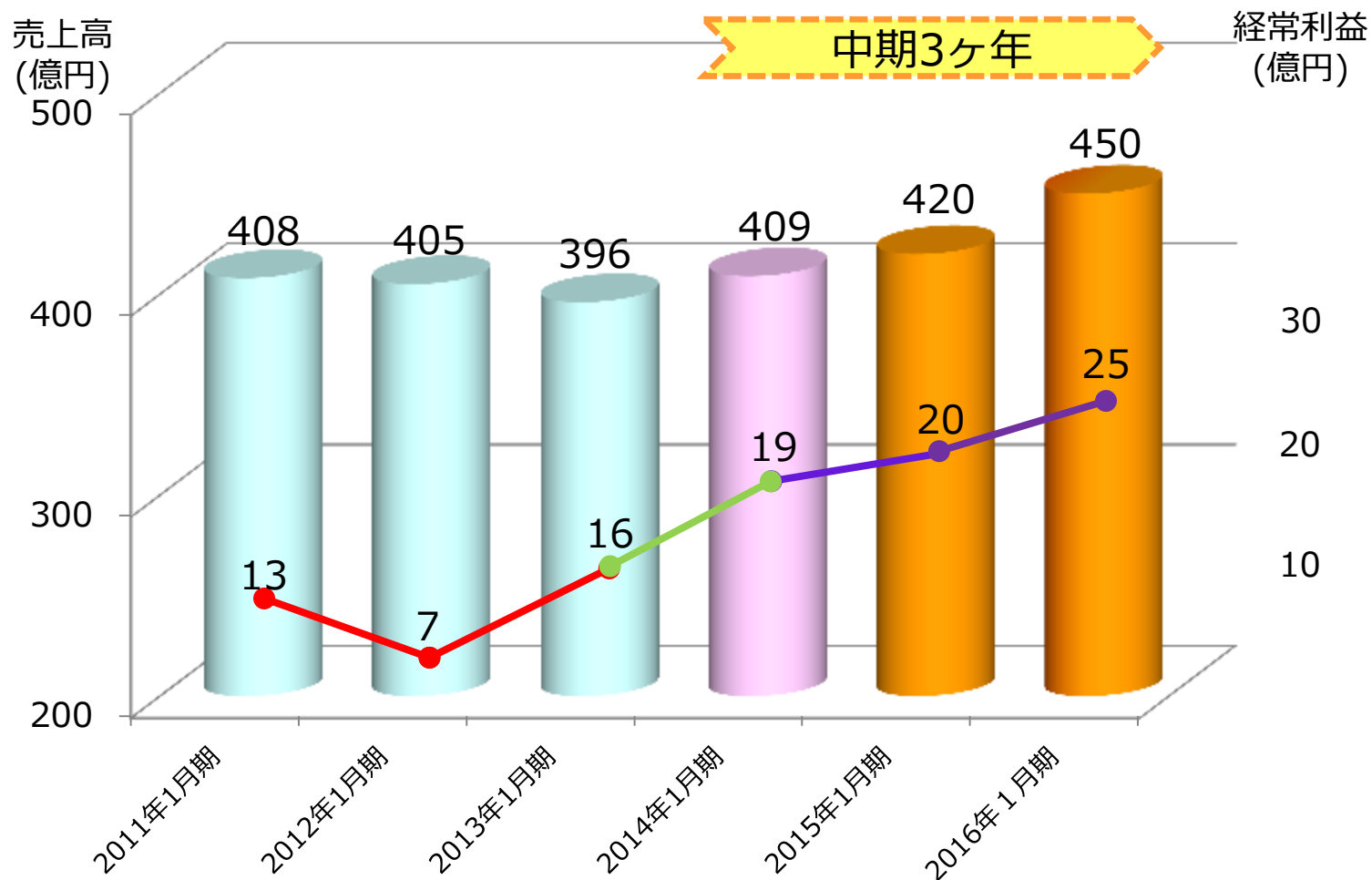
② 今期中に成長戦略を立案

現状の中期経営計画に成長戦略を加えて、
新中期経営計画を作成し、成長を加速

Ⅲ. 今期の具体的な取組み

中期経営計画の進捗状況

■ 2016年1月期までの中期経営計画を継続



2016年1月期

売上高

450億円

経常利益

25億円

経常利益率

5.6%

Ⅲ. 今期の具体的な取組み

中期経営年計画における事業セグメント

■ 事業セグメントを2つに分類し推進

□ 経営の基礎となる安定成長のセグメント

システム構築サービス

- ・大手中堅の金融・製造・その他企業を対象とした情報システム構築サービス
- ・デジタル機器製品のソフトウェア開発サービス

IT基盤サービス

- ・ITインフラ構築サービス
- ・システム運用サービス
- ・データセンターサービス

品質検証サービス

- ・デジタル機器製品の品質検証サービス
- ・情報システムの品質検証サービス
- ・ECHONET Lite等スマートハウス機器の認証サービス

□ 飛躍のための成長対象のセグメント

ビジネス支援サービス

- ・新規事業推進
 - ドキュメントソリューション事業
 - デジタルエンジニアリング事業

Ⅲ. 今期の具体的な取組み

セグメント別業績目標

IT基盤

- クラウドサービスの確立
- インフラ構築の拡大
- ITフルアウトソーシングに取組み
- ITサービスメニューを拡大

システム構築

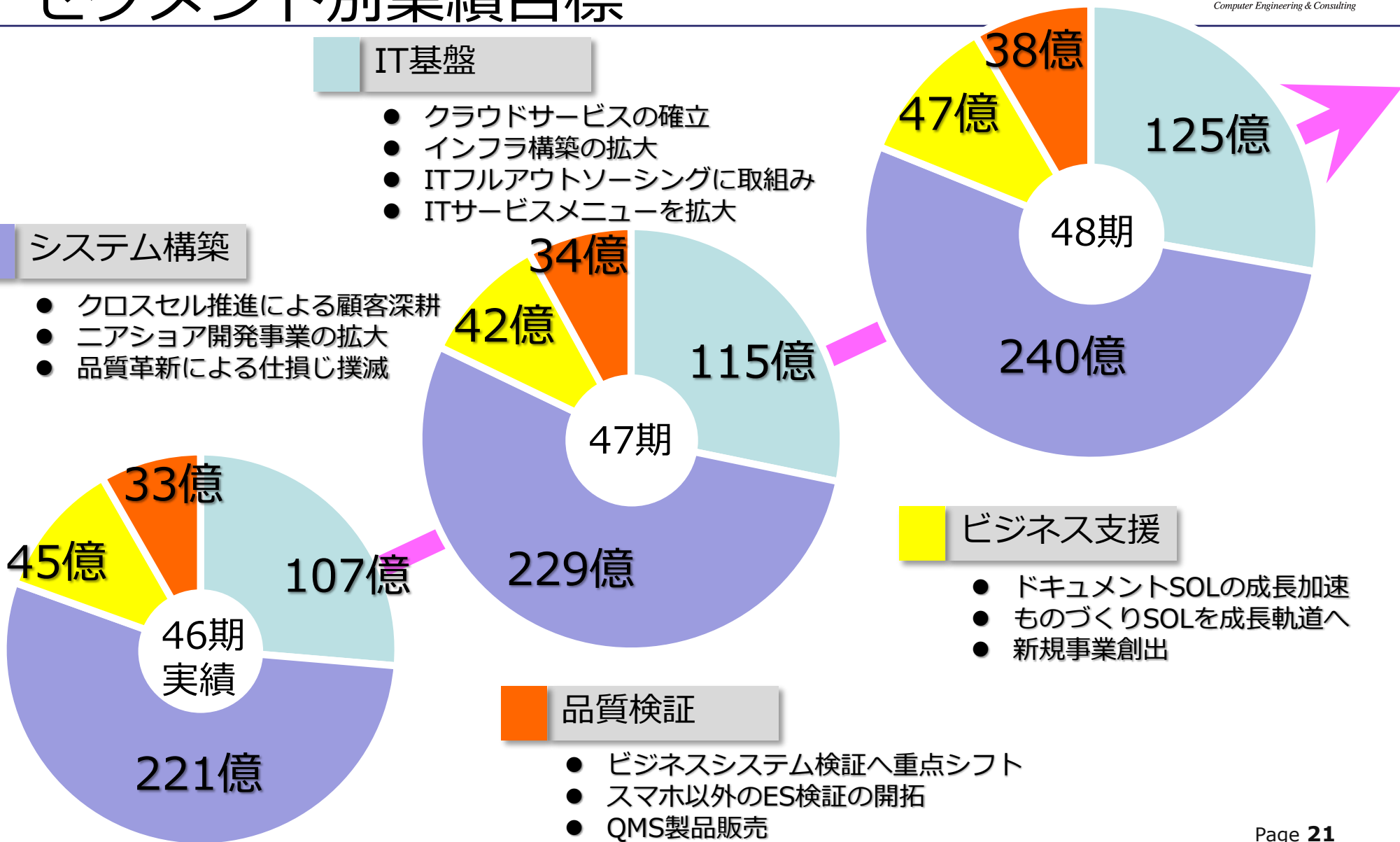
- クロスセル推進による顧客深耕
- ニアショア開発事業の拡大
- 品質革新による仕損じ撲滅

ビジネス支援

- ドキュメントSOLの成長加速
- ものづくりSOLを成長軌道へ
- 新規事業創出

品質検証

- ビジネスシステム検証へ重点シフト
- スマホ以外のES検証の開拓
- QMS製品販売



Ⅲ. 今期の具体的な取組み 【システム構築サービス】

顧客密着型で顧客をストック化

- 主要顧客の事業発展のためにシステム構築サービスを提供
- 当社のすべてのサービスを提供、顧客のITパートナーに
 - 顧客のSCMに位置づけられるサービスの提供
 - 顧客との異業種協業による新たな事業の創造
 - 事業間の連携を高め、顧客が必要とするすべてのサービスを提供する

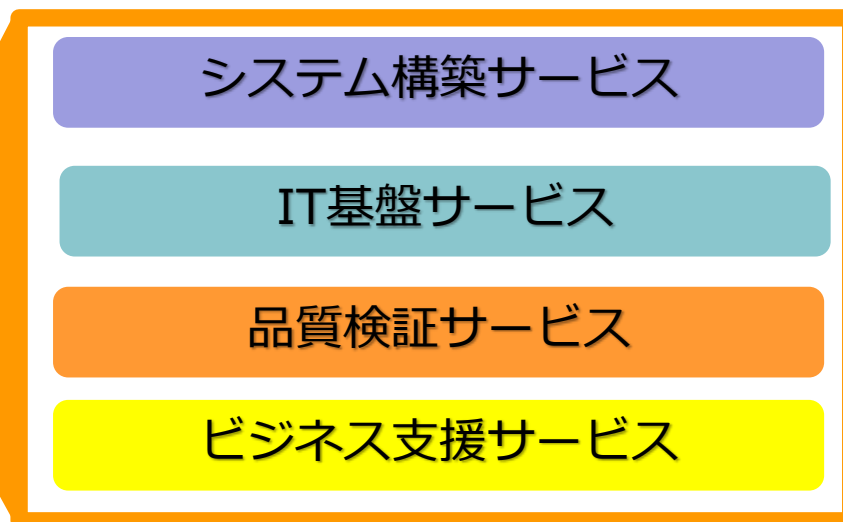
シーイーシーのすべてのサービスを提供し顧客をストック化



主要顧客に対するサービス提供窓口を一本化

システム構築サービス

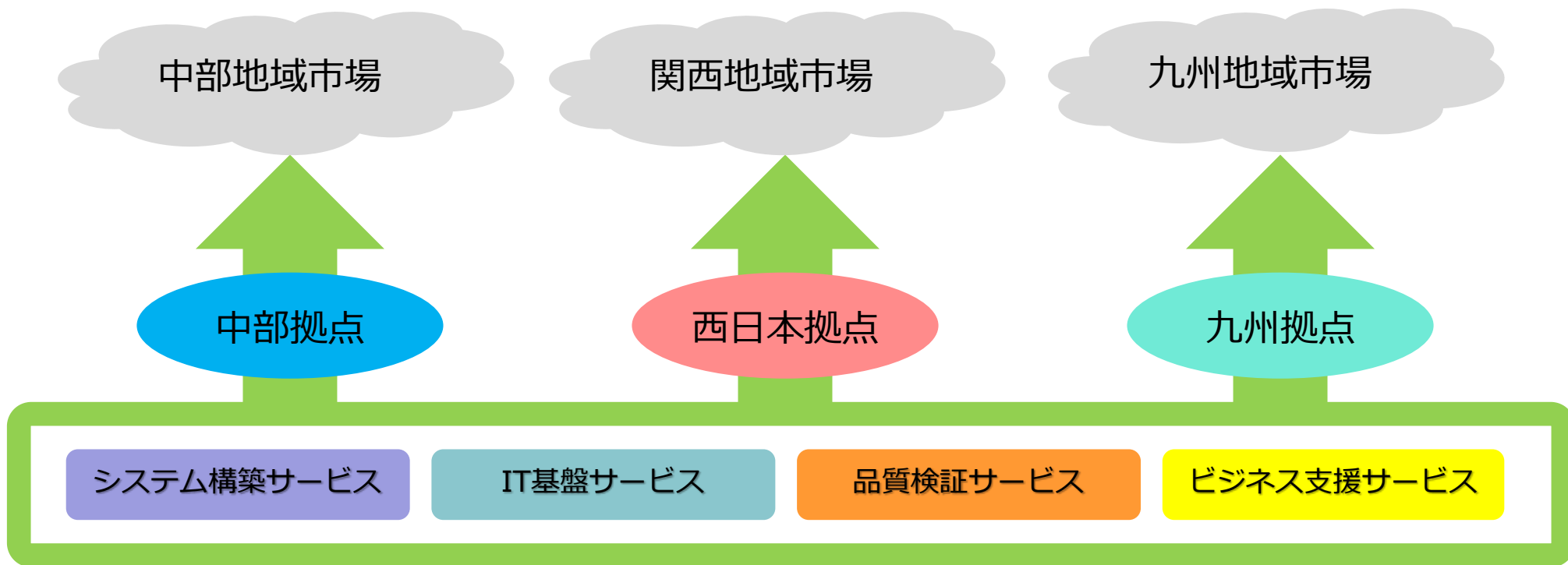
シーイーシーの提供するすべてのサービス



地域拠点の事業改革

■ 主要地域拠点（中部・西日本・九州）は、4つのセグメントすべての事業を地域市場に展開

- 主要顧客に対し、当社すべての商品・サービスを販売
- 地域市場の新規顧客開拓の促進



シーイーシーの提供するすべてのサービス

ニアショア事業の拡大

フォーサイトシステムを主体として、大分CECとも連携し、さらに強化

■九州（福岡＋大分）ニアショアの利点

- 優秀な人材確保 積極的に九州・沖縄地区より採用
- 高い定着率 離職率 4.3%(全国平均10%超)(技術流失の防止)
- 大都市圏との差別化 関東地区に比べ物価指数が約▲6.3%(全世帯)
(九州単価適用によるコスト削減の実現)
- 高度情報セキュリティ 仕組みと人とツールの融合による管理策

□ フォーサイトシステムの強み

- 技術
 - 技術者スキルを専用システムで管理
 - 技術者DBによる対応可能要員のタイムリーな把握
 - 将来的な技術者不足を想定した施策
- セキュリティ
 - 全ての事業所で入退室を専用システムで監視
 - 個人情報保護法遵守による個人情報管理
 - PC内全データを暗号化し管理
- インフラ
 - 豊富な開発環境
 - 福岡本社自社ビル
- etc



Ⅲ. 今期の具体的な取組み 【IT基盤サービス】

IT基盤サービスを体系化し事業拡大

プロフェッショナルサービス

技術ノウハウの集大成として提供する、システム全体を対象としたコンサルティングサービス

- コンサルティングサービス
- ITインフラ設計サービス
- ITインフラ分析サービス

プラットフォーム構築サービス

インフラ構築サービス、大手SIerとの取引拡大、入札参加／他事業部連携による一般顧客開拓

- サーバー構築サービス
- ネットワーク構築サービス
- 仮想化インフラ構築サービス

ITサポートサービス

リモート運用・監視サービスの事業拡大
PCキitting、破棄、保守サービスなどCCSと連携したサポートサービス事業を立ち上げ

- システム運用サービス
- システム監視サービス
- ヘルプデスクサービス
- PCキittingサービス
- PC廃棄サービス

データセンターサービス

クラウドサービスやストレージサービスなどDCを活用した新規サービスの立ち上げ
ホスティング・ハウジングサービスの事業拡大

- ホスティングサービス
- ハウジング・コロケーションサービス
- クラウド基盤サービス IaaS/PaaS
- ストレージサービス STaaS
- ネットワークトランジットサービス

情報基盤構築サービス

ビジネスプラットフォームとして企業活動に不可欠なコミュニケーション基盤システム構築サービス

- ストレージシステム構築サービス
- 企業コミュニケーションシステム構築サービス
- クラウドシステム構築サービス

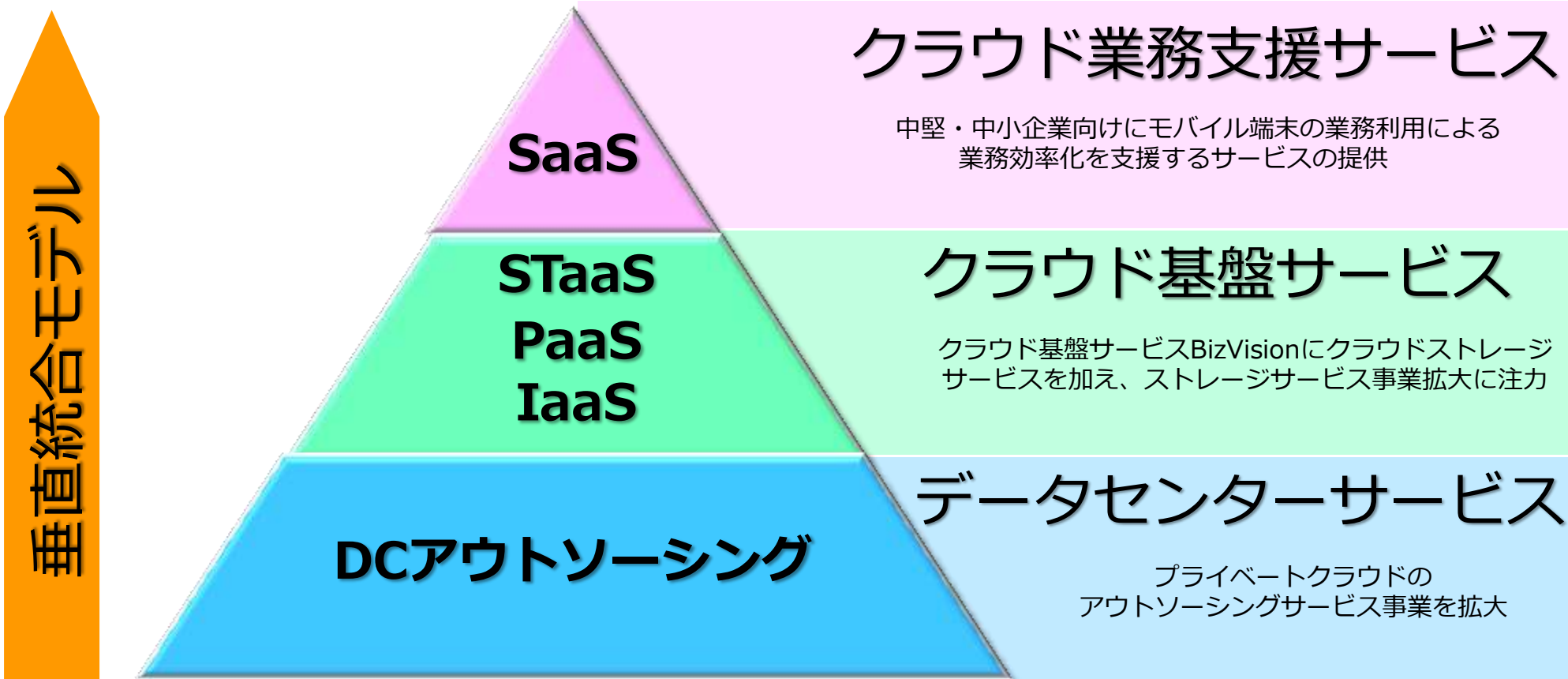
IT機器・ソフト販売サービス

ITインフラに関わるHW/SW販売

- PC・サーバー機器
- ネットワーク機器、その他情報機器
- 基盤系パッケージソフトウェア

Ⅲ. 今期の具体的な取組み 【IT基盤サービス】 クラウドビジネスを成長ビジネスに

- 3階層の垂直統合型クラウドサービス
CEC CLOUD を成長ビジネスとして本格展開



Ⅲ. 今期の具体的な取組み 【品質検証サービス】

検証対象分野のシフトとテスト効率化

■ PROVEQサービスの3つの対象分野

BS検証
(Business System)

ソフトウェア検証サービス

パフォーマンス検証サービス

セキュリティ検証サービス

自動化によるテスト効率化で情報システム分野に注力

- ・テスト手順のスク립ト化
- ・テスト結果の自動比較

ES検証
(Embedded System)

医療機器等の検証サービス

スマートフォン検証サービス

特に医療機器の品質検証に注力

- ・ソフトウェア検証
- ・医療機器の動作検証

既存顧客は維持

- ・機器検証
- ・スマホApp検証

M2M・IOT検証サービス

今後狙う分野

**スマートグリッド
検証**

HEMS機器検証サービス

HEMS機器 ECHONET Lite認証サービス

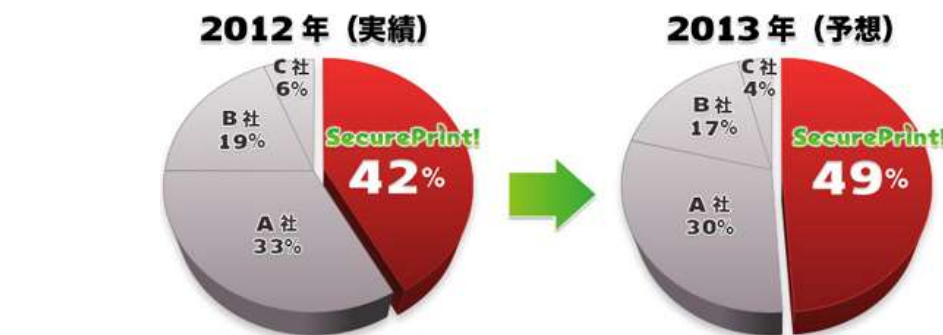
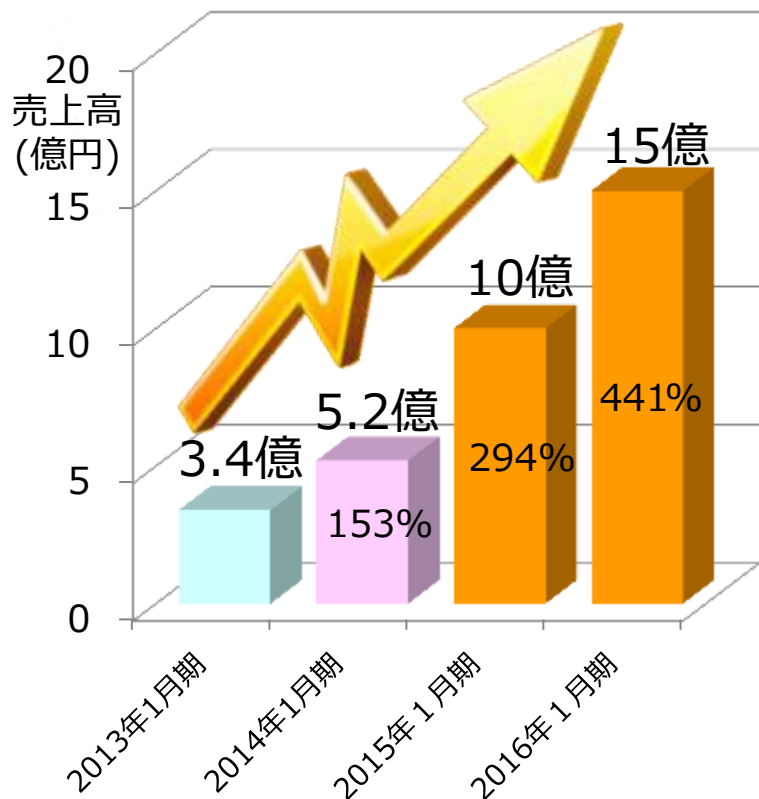
スマートハウス分野のHEMS機器の品質検証に注力

- ・HEMS機器間接続検証
- ・HEMS機器の動作検証

認証印刷ソリューションの成長加速

■ 認証印刷ソリューション SmartSESAME SecurePrint ! はデファクト製品に

○ 2013年度トップシェア獲得



出典: 株式会社ミック経済研究所「セキュアプリントシステムの市場動向調査」(ミックITレポート2013年8月)

事業規模拡大の時

- ✓ 官公庁・自治体・大手企業への販売を重点強化
- ✓ パートナープログラムの見直しによる販売促進
- ✓ 製品競争力のさらなる強化 (製品ロードマップ推進)
- ✓ 認証印刷から「ドキュメントソリューション」へ

“攻め”の積極的投資を継続！！

認証印刷ソリューションの売上実績及び今後の見込

(※関連サービスを含む)

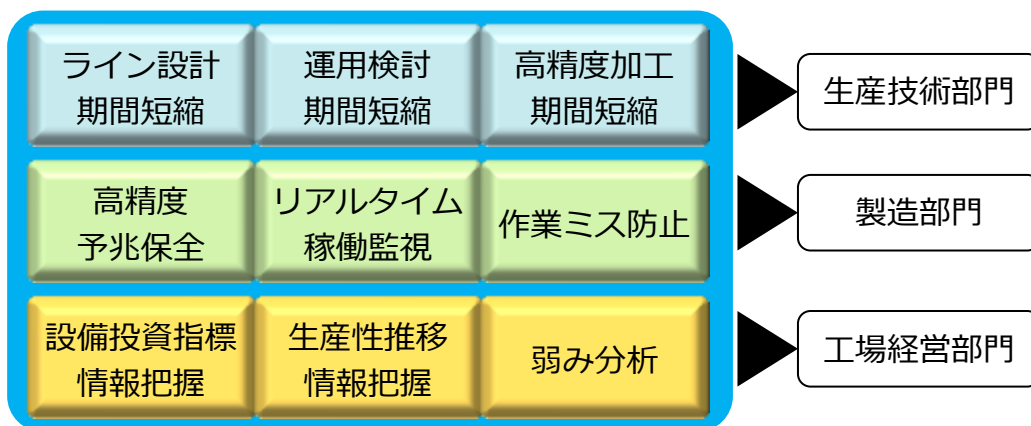
Ⅲ. 今期の具体的な取組み 【ビジネス支援サービス】 ものづくりSOLを成長軌道へ

■ VR+Rは、デジタルエンジニアリング事業に進化

組立製造業の顧客へ【9つの価値】を提供



<バリューナイン>



2016年1月期 売上目標

9億

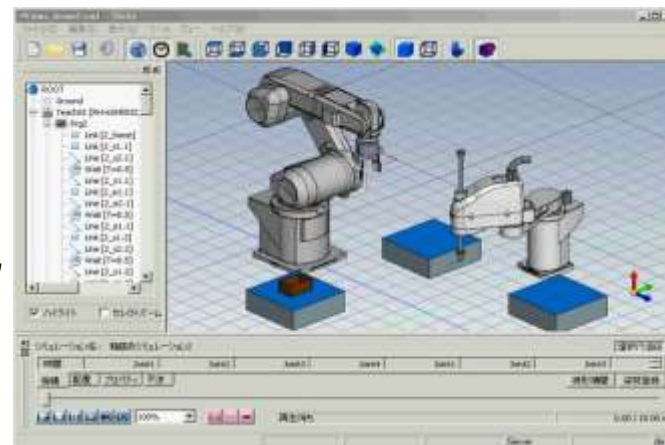
長年培った製造分野のノウハウを結集し、PLM市場に独自製品・サービスを投入

豊富な製品ラインナップ

- **RoboDiA** ロボットの最適配置検証・ティーチングツール
- **Virfit** ロボット動作検証ツール
- **Revirtry** 生産能力効率化シミュレータ
- **RaAP** 生産ライン業務最適化ツール
- **RaLC** 物流業務最適化ツール
- **MIB** ものづくりプロジェクト管理ツール
- **Facteye** 設備稼働監視・実績収集/分析ツール→ビッグデータ

保有する高度な制御技術

- ロボット制御プログラミング技術
- NC制御プログラミング技術

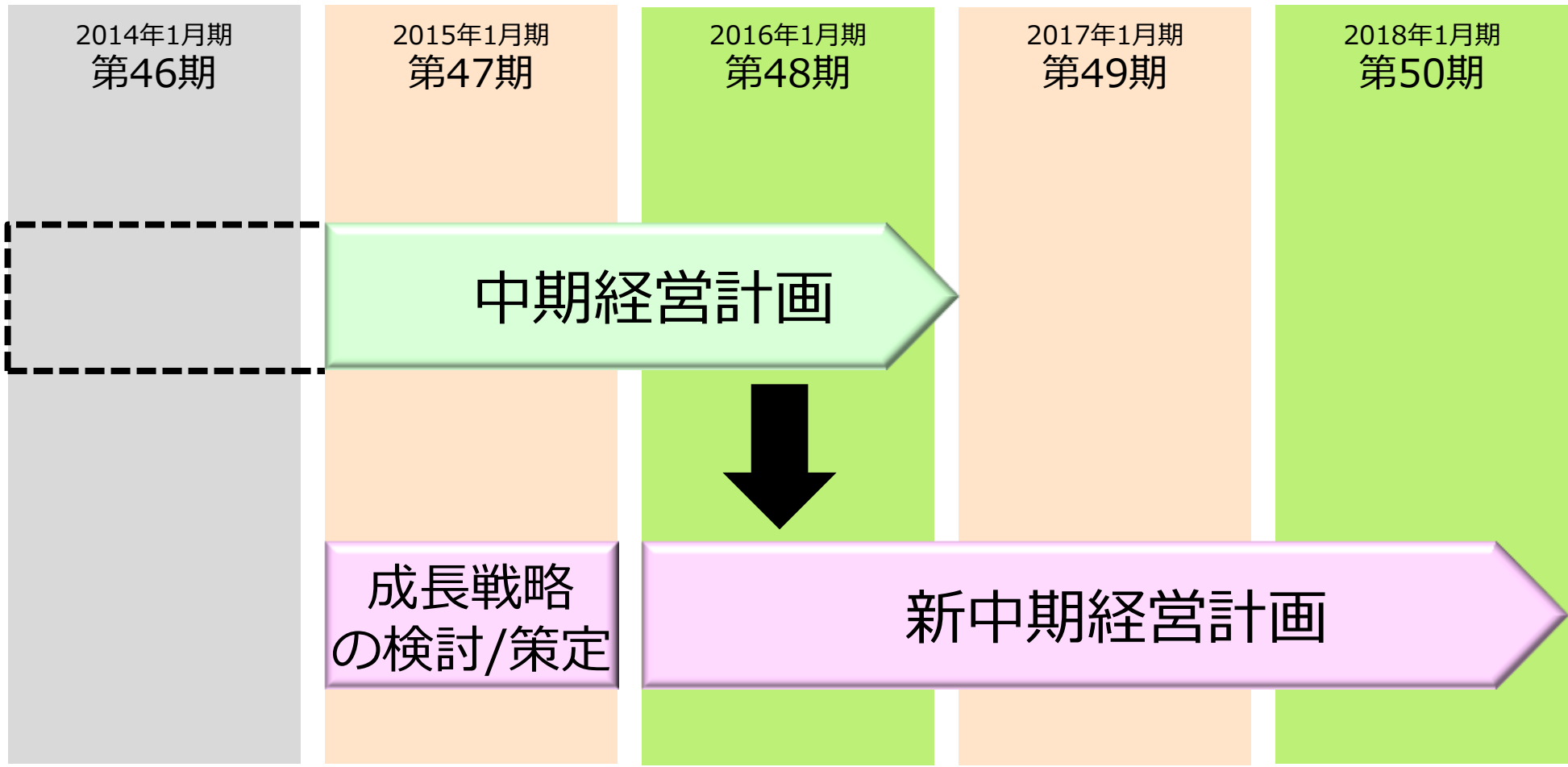


- I. 2014年1月期業績報告
- II. 2015年1月期の見通し
- III. 今期の具体的な取組み
- IV. 成長戦略**

特徴あるIT企業を目指して

- 第50期(2018年1月期)の節目に向けて、現中期経営計画に新たに成長戦略をプラスし、新中期経営計画を今期中に策定
- 注力ビジネスの事業戦略をさらに強化し、成長を加速
- 新たな事業を創出する「ビジネスチャレンジプロジェクト」を開始

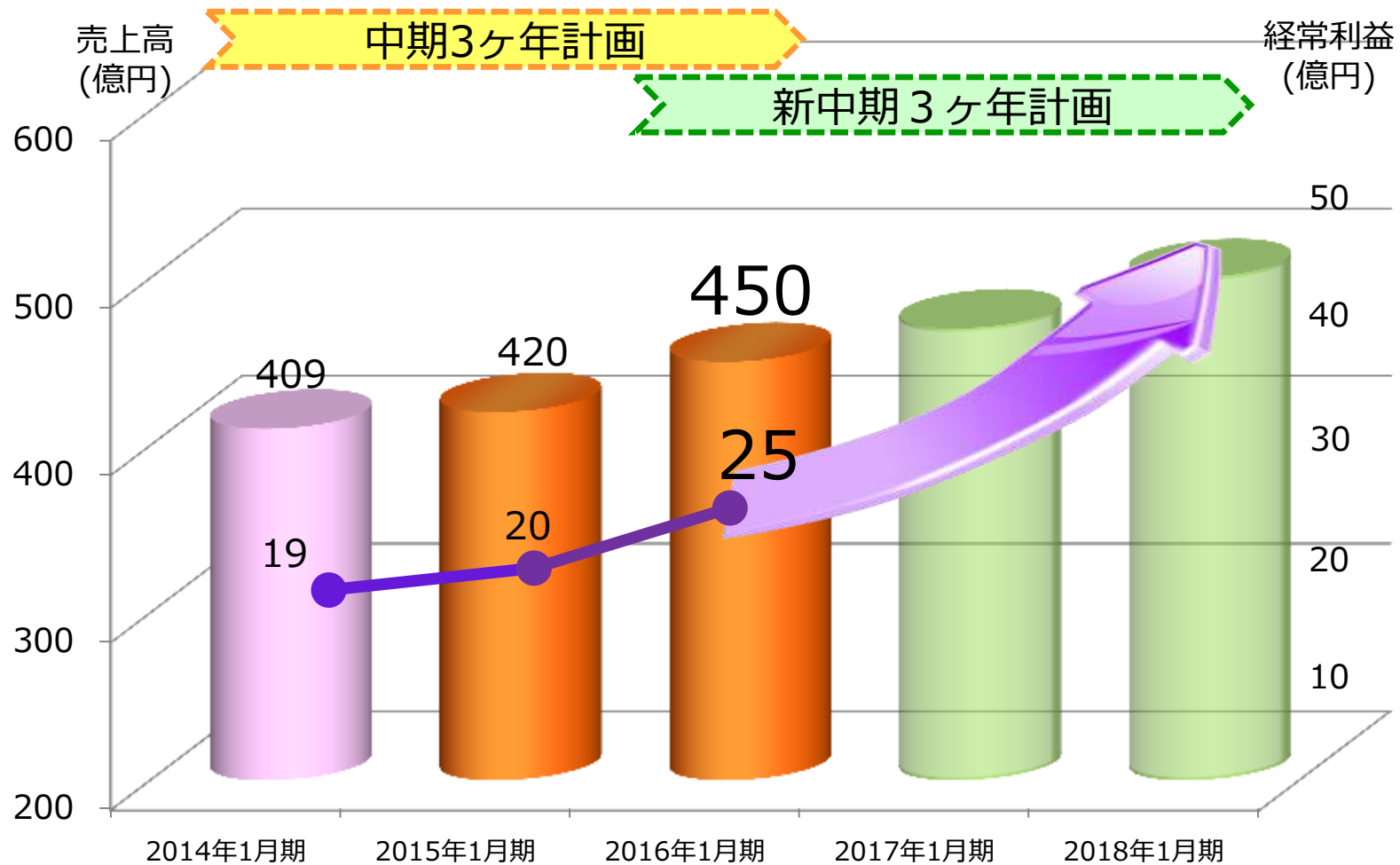
新中期経営計画



IV.成長戦略

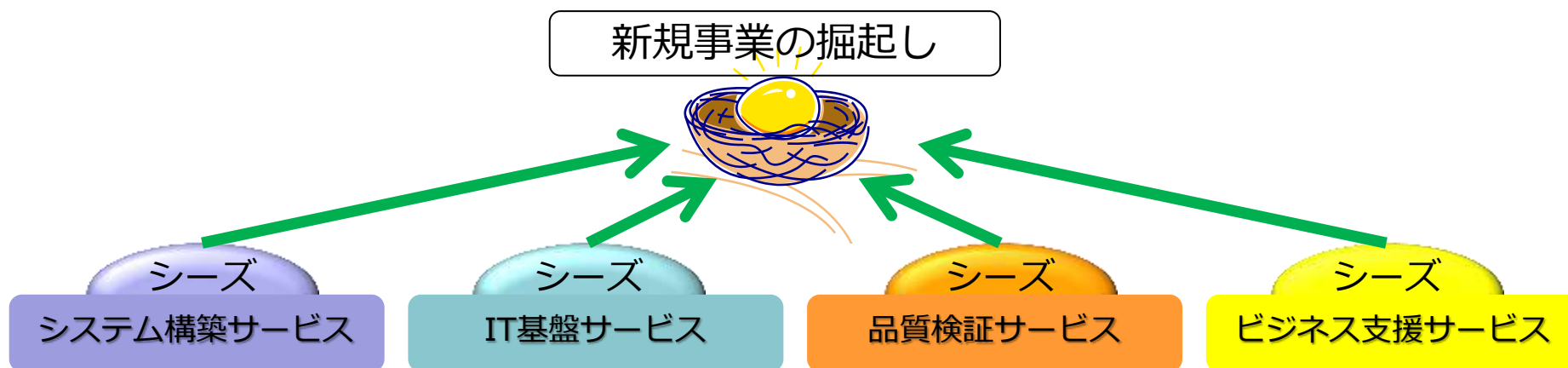
第50期に向けた成長戦略をプラス

- 2018年1月期までの新中期経営計画を策定し、さらに成長を加速



新規事業創出の取組み

- 各セグメント内のシーズを洗い出し、可能性ある新規事業掘起し



- ビジネスチャレンジプロジェクトを5月よりスタート

従業員が新規ビジネスを企画し、ビジネスリーダーとなれる

- 4月末までに掲示板にビジネスチャレンジポストを開設
- 企画を持つ従業員は所定のフォーマットにビジネス企画を記載し、ビジネスチャレンジポストに投稿
- 企画部および経営陣により内容を吟味し選考
- 選考されたビジネス企画を経営陣にプレゼン
- 採用されたビジネス企画は事業として投資

事業再構築

特徴ある製品・サービスで社会的に認知され、市場から期待される企業

新たな商品（製品・サービス）を常に生み出し、投資と収益のバランスが取れた競争力ある企業

従業員が活力にあふれ、自己の成長を実感でき、会社の成長への貢献に喜びを感じられる企業



ご清聴ありがとうございました

Shape your future

[お問合せ先]

株式会社シーイーシー

企画部 広報グループ

03-5789-2442

経理部 IR担当

046-252-4111

- 本資料は、投資を勧誘する事を目的として作成されたものではありません。
- また、本資料に記載しております将来の業績に関する見通しは、日本経済や情報サービス産業の動向、その他現時点で入手可能な情報による判断及び仮定により、算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、変動する可能性がある事をご承知おきください。